

BUNGAKUZA TSUSHIN 2026.3 Vol.799

文学座通信

フェフ アンド ハー フレンズ
●アトリエの会『Fefu and Her Friends』

観客の皆さまへ——エリーズ・トロン…1
私たちのハーモニー——添田園子……2
フェフの家の間取図……………3
キャストからのメッセージ……………4~5
アヴァンギャルドの母
Maria Irene Fornés——黒田絵美子……6
公演情報……………7
●アトリエ短信……………8

文学座3月アトリエの会

FEFU AND HER FRIENDS

フェフ アンド ハー フレンズ
作: マリア・アイリーン・フォルネス
翻訳/ドラマトゥルク: 添田園子
演出: エリーズ・トロン

3月17日(火)~29日(日)
信濃町 文学座アトリエ



アメリカの劇作家、演出家、翻訳家。アメリカン・プレイス・シアター副芸術監督。長年にわたって芸術を通じた国際文化交流に尽力し、ロシア、オランダ、イギリス、ブラジル、キューバ、日本で数多くのライブパフォーマンスを手がけてきた。日本では10年以上、日米バイリンガルパフォーマンス『Recycling: Washi Tales』を和紙造形作家の伊部京子と共に創作。また「Literature to Life」の共同設立者・芸術監督として、演劇リテラシー・プログラムを30年にわたって実施し、全米で大きな成功を収めている。

観客の皆さまへ

演出 エリーズ・トロン

英語の「観客/オーディエンス」には「聴く」という意味があります——そう、皆さんは私たちの聴き手、この劇の中心なのです。皆さんの開かれた耳と心、耳を傾ける意志こそが、この舞台を飛び立たせてくれる原動力です。マリア・アイリーン・フォルネスはまるで「親しい友人たちに囲まれている」ように感じ、8人の女性たちのつくる輪に深く耳を傾けながらこの戯曲を執筆しました。フォルネスは、女性たちの思考の内に流れる声を聴き逃さないため、男たちを庭の外に留め置き、観客の皆さんを「共に聴く仲間」としてフェフの家へと招き入れました。その会話、罪の告白、笑い声や幻覚が、部屋から部屋へと、壁を通して漏れ聞こえてくる——言葉という音楽、思考の不協和音を、伝統的な劇の構成に頼りきることなく耳を傾けてもらうために。さあ、フェフの家/アトリエを移動しながら、親密な音に身を委ね、ゆったりと耳を傾けることを楽しんでください。そこには、芸術を用いて女性の教育のための資金を集めるプレゼンテーションの練習をしようと、8人の女性が集まっています。

物語の途中では、登場人物たちもまた、皆さんと同じように「観客」となり、全員でひとつの素晴らしいスピーチに耳を傾けることになります。それは、俳優であり教育者でもあったエマ・シエリダン・フライの著書『Educational Dramatics』の序文をそのまま引用した

ものです。フォルネスは、既存の文章や物体からインスピレーションを見出すことが大好きでした。古着屋で見つけた5着の素敵なパーティードレスも、『Fefu and Her Friends』のインスピレーションの源でした。彼女は、世界がその瞬間に与えてくれるものを受け入れ、直感に従い、残りは想像することで執筆しました。そして今、観客の皆さんにも同じ機会を与えてくれています。私たち自身の気分の揺らぎや、劇場に来るまでに起きたこと、隣の部屋で起きていること、場所から場所へと移動する中で起こる「偶然の巡り合わせ」を受け入れるよう促しているのです。

本邦初演となる今回、園子さんによる精緻な翻訳によって、フォルネスの文章が新しい言語のリズム、そして诗情へと解き放たれます。皆さんが日本語での最初の聴き手として耳を澄まし、この作品が持つ魔法に身を委ねてくれることを願っています。14歳の少女だった私にとって、ニューヨークで『Fefu and Her Friends』の初演を観劇したことは、まさに魔法のような体験でした。ひとりの女性として演劇で何ができるのか、その認識を変えてくれたのです。それから50年がたった今、私は素晴らしいコラボレーターたちと文学座のアーティストたちを代表して、深い喜びと共に、観客である皆さんをフェフの家へとお招きします——ようこそ!

(翻訳: 添田園子)

アトリエ短信

第33回読売演劇大賞結果発表!

2025年の優れた演劇作品、演劇人を顕彰する第33回読売演劇大賞の最終選考結果が発表されました。亀田佳明が世田谷パブリックシアター『ボルノグラフィ/レイジ』と二兎社『狩場の悲劇』の演技により最優秀男優賞、稲葉賀恵が自身のユニット「ポウジュ」での『リタの教育』『オレアナ』連続上演および『Downstate』の演出により最優秀演出家賞を受賞しました。saraが『ボルノグラフィ/レイジ』と日生劇場『Once』の演技により優秀女優賞を受賞。なお、稲葉演出の『Downstate』は優秀作品賞も受賞しています。

『Fefu and Her Friends』書籍化のご案内

3月アトリエの会『Fefu and Her Friends』の戯曲が論創社から書籍化されます。マリア・アイリーン・フォルネスの代表作であり、本邦初演となる同作の出版について、企画者・翻訳家・ドラマトゥルクの添田園子は「未来の演劇人たちが、より多くの人たちを巻き込みながら本作を上演している姿を、窓から差し込む暖かな陽ざしのように、夢見ています」と述べています。フォルネスの言葉を、舞台を観て、戯曲を読み、味わっていただければ幸いです。

◆定価＝本体1,800円(予定)＋税
◆販売開始＝3月17日(火)

※ご予約いただいた方には、17日より順次ご郵送でお届けします。

また、上演期間中は、公演会場の受付にて販売します。ぜひお求めください。



予約・購入フォーム

「みんなのアトリエ」のご案内

こども向けの企画として「みんなのアトリエ a place for you 入谷」参加者を募集します。音・絵・演劇や身体表現などを使った自由なアートワークショップです。3月から12月まで、毎月1回ペースで集まります。ご参加は1回からOK! 続けてのご参加も大歓迎です。

◆参加アーティスト＝鈴木亜希子、相川春樹、御守未来 ほか

◆3月20日(金・祝)	14時～15時半
4月19日(日)	14時～15時半
5月31日(日)	14時～15時半
6月28日(日)	14時～15時半
8月5日(水)	17時～20時
8月26日(水)	17時～20時
9月27日(日)	14時～15時半
10月25日(日)	14時～15時半
11月29日(日)	14時～15時半
12月20日(日)	14時～15時半

成果発表会(時間未定)

◆参加費無料

◆会場＝SOOO dramatic! (台東区下谷1-11-15ソレイユ入谷1階)

◆お申し込み・お問い合わせ＝文学座 ことばげき

080-3670-8291 (担当:鈴木亜希子)

03-3335-7265 (10～18時/土・日・祝を除く)

kids.fes2012@gmail.com

主催＝文学座

民間連携＝SOOO dramatic!

(合同会社 点と線の間)

助成＝アーツカウンシル東京

「芸術文化による社会支援助成」

協力＝キッズシアターボクとキミの秘密基地、台東区社会福祉協議会



文学座こどもげき 申込みフォーム

出演情報

◎追加情報は文学座HPにて

★乃村美絵:『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出)～2026年末 TBS赤坂ACTシアター

★粟野史浩:ミュージカル『レイディ・ベス』(ミヒヤエル・クンツェ 脚本・歌詞、小池修一郎 演出・訳詞・修辞) 2/9～3/27 日生劇場 ほか

★石田圭祐、浅野雅博、櫻井章喜、木津誠之、越塚学、常住富大:『大地の子』(山崎豊子原作『大地の子』文春文庫)、マキノゾミ 脚本、栗山民也 演出) 2/26～3/17 明治座

★奥田一平:『語れ! 熱血! 超秘密戦隊ゴニンジャー!!』(加藤陽一・鴻野貴光 作、磯村純 演出) 3/1 日本工学院専門学校(蒲田駅より徒歩2分)

★駒井健介:『2時22分 ゴーストストーリー』(ダニー・ロビンズ 作、徐賀世子 訳、森新太郎 演出) 3/6～8 東海市芸術劇場(愛知), 3/12～16 SkyシアターMBS(大阪)

★平体まひろ:『鹿鳴館異聞』(堤春恵 作、扇田拓也 演出) 3/11～15 東京芸術劇場(池袋)

★sara:『コーカサスの白墨の輪』(ベルトルト・ブレヒト 原作、酒寄進一 訳、瀬戸山美咲 上演台本・演出) 3/12～30 世田谷パブリックシアター(三軒茶屋) ほか

★相川春樹:『サムとハロルド』(アソル・フガート 作、安達紫帆 訳、西川信廣 演出) 3/13～22 東演パラータ(下北沢)

★大滝寛、佐川和正、武田知久:『るつぽ』(アーサー・ミラー 作、水谷八也 訳、上村聡史 演出) 3/14～29 東京芸術劇場

★小谷俊輔:『ワタクシ、そして韻・ザ・ワールド』(田村真央 作・演出) 3/18～22

インディペンデントシアター Oji (王子)

★石橋徹郎:『藤田嗣治～白い暗闇～』(鈴木アツト 作・演出) 3/19～24 東京芸術劇場

★比嘉崇貴:『国防まんじゅう顛末記』(伊波雅子 脚本、藤井ごう 演出) 3/21～26 ひめゆりピースホール(沖縄)

★川合耀祐:『母の人生、ガブリと食らう』(深井邦彦 作・演出) 4/4～12 吉祥寺シアター

★采澤靖起、松本祐華:『メアリー・ステュアート』(フリードリッヒ・シラー 原作、ロバート・アイク 翻案、小田島則子 訳、栗山民也 演出) 4/8～5/1 PARCO 劇場(渋谷) ほか

★増岡裕子:『ガールズ&ボーイズ』(デニス・ケリー 作、小田島創志 訳、稲葉賀恵 演出) 4/9～26 新国立劇場(初台)

※増岡裕子の出演は4/10,13,17,22,25